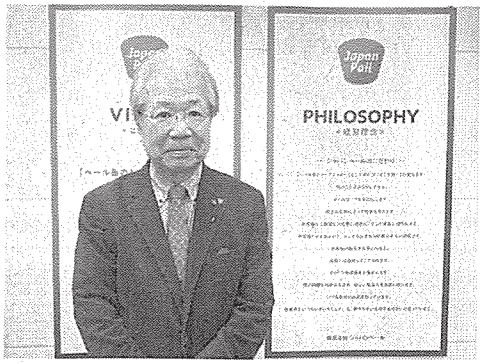
外装関連

注目の企業

ジャパンペール
幅広い分野へ魅力発信
ペール缶トップメーカーの戦略

鋼製ペール缶製造大手のジャパンペール（大阪市西区、☎06・6535・1721）は、品質とサービスの両面で付加価値の高い製品提案を行い、業界内での存在感を強めている。このほど、小ロット対応の「オリジナルデザイン缶」の受注生産を開始し、新規マーケットでの需要創出に乗り出した。成長軌道を描き続けるトップメーカーの動向に熱い視線が注がれている。



長島裕代表取締役社長

美しい意匠性のオリジナルデザイン缶

同社が手掛けるのは、主に液体の輸送・貯蔵容器として使われるペール缶で、潤滑油など石油関連や化学品関連を中心とする工業分野を需要業界としている。本社と東京支店を含む全事業所で、ISO9001およびISO14001の認証を取得しており、東西3工場での安定生産により、高品質な製品を全国へ供給。厳格な品質管理体制の構築によって顧客の信頼も厚く、国内ペール缶市場で約45%のシェアを誇る。

近年は、精密機器のレジストインキをはじめ、ICや液晶向け材料関連など、高いクリーン度が必要な内容物での需要も高い。同社の尼崎工場（兵庫県尼崎市）は、業界に先駆けて清浄度10万クラスのクリーン化を実現し、顧客の要望に応えた高付加価値缶を生産している。とりわけ「高ポリクリーン缶」シリーズは、高密度PE製の内装と鋼製ペール缶との二重構造により、優れた耐薬品性と耐衝撃性を両立した独自性の高い製品として市場で好評を博している。

鋼製ペール缶の年間流通量は2千万缶弱で、ほぼ横ばいに推移している。だが、同社の長島裕代表取締役社長は「需要の先行きにはやや不透明感もある。新規マーケットの開拓や顧客サービスの強化に、さらに力を注ぐ必要性も感じている」と語る。

新たな市場開拓の第一歩と言えるのが、昨年開始した「オリジナルデザイン缶」事業だ。〝金属印刷による美しい意匠性〟というペール缶の特徴を生かしつつ、高精度のインクジェットデジタル印刷を採用することで、低コストでの少数生産を可能にした。10～29㌔までの既製サイズで、1缶から受注生産に対応する。特に企業やブランドの販促品、イベントの記念品などでの活用を見込んでおり、近日中に専用ECサイトの立ち上げも予定している。

昨年のTOKYOPACKへの出展に際しては、自社製品や「オリジナルデザイン缶」、有名ファッションデザイナーとのコラボによるデザイン缶などを披露し、多様な業界に向けて大々的にPRを行った。

長島社長は「これらの取り組みは〝インナーブランディング〟の意味合いも強い。従業員一人ひとりにトップメーカーとしての誇りや意識を持ってもらうことが、ひいてはお客さまの満足度向上にも結び付いていく」と述べる。今後もペール缶専業メーカーとして、既存顧客のニーズに応えた製品供給に努めるとともに、未知の業界に向けて積極的にペール缶の魅力を発信し、一層の飛躍を目指したい考えだ。